

玉手山学園広報

No.55 秋号
2007年9月25日発行
総合学園広報誌

大学創設十周年

将来を拓く学生を育てる

情熱、喜びそして誇りを胸に

〈駆け抜けてきた十年〉



理事長 江端 源治

今年、学校法人玉手山学園は創立65周年を迎え、関西福祉科学大学は、この3月、大学創設10年にして念願の「博士学位」を2名の方に授与し得ました。200名の女子生徒から始まった学園が今日あるのは、まさに学園創設以来、幾多の試練・困難を克服されてきた多くの先人、そして教職員、学生・生徒・園児、保護者、同窓生をはじめ、学園に関わってくださっているたくさんの皆様のご努力、ご尽力、ご支援のおかげであると心から感謝申し上げます。

一九四二年、学園創設
建学の精神「感恩」は
学園教育理念の原点

昭和17年(1942年)、校祖山

田藤一は女子教育への熱い思いと自らの浄財をもって、この国分のに玉手山高等女学校を創設し、自身の処世訓「感恩」を校是として掲げました。爾来、「感恩」は学園建学の精神として止揚され、学園各校園の教育理念の原点として学園史を貫き、今も脈々と活き続けているのです。

建学の精神「感恩」の原型は、人間のおよび得ない存在に対する畏敬の念と生かされてある不思議に対する感謝の思いにあります。"忘れるまじ"人はみな有形無形の数々の恩恵を享受してこそ「今日」があります。この厳肅な事実・偉大なほからいを直視し真摯に受け止めるとき、私たちは深い感動と感謝を覚えずにはおられません。この感動と感謝の念を形あるものにするべく、湧き出る強い情熱を

もって、実践・行動するとき、われわれは人々に幸せをもたらす社会に貢献することができると信じています。

大学 駆け抜けてきた十年
学生をどこまで
伸ばせるか

1997年、学園建学の精神「感恩」に発する教育理念「臨床福祉」を高らかに掲げ、人を幸せにする福祉社会の構築者の育成を期して、関西福祉科学大学を開学して以来、早くも10年。本学を選び入学してくれた学生諸君を、どれだけどこまで伸ばし育て得るかに情熱を燃やし、喜びと誇りを胸に、総力を結集しひたすらに駆け抜けてきた10年でした。この間、社会はわが大学の教育力、そして大学教職員のこの教育にかける情熱、直向さを評価してくださっていると自負しています。

一学部一学科でスタートした単科大学が、今や二学部四学科、一研究科二専攻を擁し、学園2号館の竣工と、施設・設備も拡充し、在学生数約2800名の規模にまで達し、現役学生による学友会も活性化するとともに、保護者による教育後援会も発足し学生の勉強活動の支援体制も整ってまいりました。そして何よりも毎年の卒業生が元気に社会で活躍され、その存在が年々大きくなっていることを力強く頼もしく思っています。

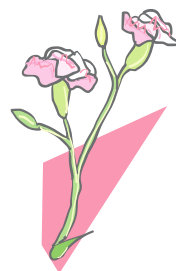
OBの皆様元気な様子は、現役学生たちの何よりの励み、そして学園教職員の明日からの教育活動の活力源です。

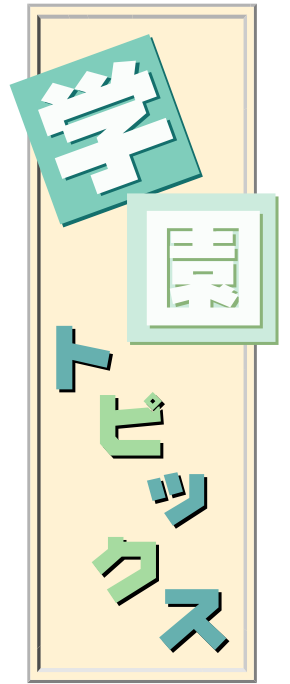
「入学してよかった、卒業してよかった」のために我々は情熱を燃やし、社会に必要とされ、知られる学園に

さて周知の通り、この10年間で18才人口は激減していますが、需給のバランスに逆行するかのよう約百七十校にもほる大学が新設(約30%増)され、学部・学科の新増設が今も続いています。厳しい生存競争を勝ち抜き「選ばれた大学」であるために必要なもの? それは「教職員の教育力と情熱」です。教育力の向上と情熱あふれる教育実践なくして「学生力の向上」は叶いません。「常に教育力の向上に努め、良質の教育サービスの提供に徹し、学生の持てる力を十分に引き出し、最大限に伸ばし育て、彼らに入学してよかった、卒業してよかった、最高の満足感をもたらす」ことこそ、われわれ教育人の責務であり、その責務・使命達成に喜びと誇りを持って情熱を燃やし続ける、これこそがわが学園の誇れる教職員魂です。そしてそんな教職員との生涯を通じての邂逅を求めて学生たちは、わが大学を選び通い学んでいるのです。彼ら彼女らの「入学してよかった、卒業してよかつ

た」のために我々学園教職員は情熱を燃やし総力を結集します。情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である...このことを肝に銘じて。

「あの学園の学生は、いい!」の定評と、社会に必要とされ「関西でその名を知らぬものは一人としていない」という学園を目指してまいります。





大学開学

十周年記念行事を紹介します

十周年企画委員会

大学開学10周年を迎え、記念行事を企画推進していますが、現在進行している行事をご紹介します。

①高校生論文コンクール

「人を幸せにする」というテーマで募集中の高校生論文コンクールは9月20日に応募を締め切り、厳正審査の後、優秀者は10月20日の記念式典に招待し表彰する予定としております。

②開学十周年記念セミナー・教育懇談会(岡山・金沢会場)

教育後援会活動のアピールも兼ねて、10周年関連行事として、初めて大学所在地を離れての教育懇談会を企画しました。倉恒教授(岡山)、杉本教授(金沢)の講演と、教育懇談会、進学相談会を組み合わせたイベントを、岡山(9月15日)金沢(9月29日)で開催しました。

③開学10周年記念式典・記念講演

10周年記念式典は、10月20日(土)

に学園記念講堂で開催されます。

学園、大学が招待したお客様、大学の学生及び保護者の皆さん、大学および学園の教職員の皆さんが集って10周年を祝賀し、中西進先生(万葉文化館長)による「幸福学の構想」を拝聴し、最後にイベントとして高校生論文コンクールの表彰を行った後、堂島孝平氏の作詞作曲になる「関西福祉科学大学学生歌」のお披露目が行われる予定となっております。

記念式典が終わると、大学祭の開催日に合わせて同窓生の集い：ホームカミングデーの催しが10周年の大きなイベントの締めくくりとして予定されています。

10周年記念行事を通じて、歩み来し10年の着実な足跡を振り返りながら、大学を取り巻く厳しい外部環境の中で、関西福祉科学大学の更なる前進を誓い合い、そのための次の一歩を踏み出しましょう。

有文館西側に

庭園「春の里」設置

法人本部施設部 田堀 富造

平成17年4月のJ.R事故で亡くなられた井上美里さん、折尾春菜さんのご遺族より学生のみなさんのために役立ててほしいとの趣旨で学園に寄付をいただきました。学園ではご遺族の意向を尊重し、早速企画チームを作り、故人の追悼、生きる力、喜びを表現できる形あるものを制作すべく検討することとしました。企画チームには故人の同級生にも参加してもらい、意見を出してもらいました。

何回も会合をもち検討した結果、学生が集える、憩える、語り合える庭園を制作しその庭園内に銘文を置き、故人お2人の名前から庭園を「春の里」と命名することとしました。庭園は有文館西側に設置し、完成は10月中旬を予定しています。

【銘文】は左記の通りです。

美しき春 永久に

健康福祉学部一年

井上美里さん

折尾春菜さん

人を幸せにする学びを究め 社会に尽くすと誓った貴方たち

夢と希望はJ.R福知山線事故(平成十七年四月二十五日)に阻まれたけれど

その想いは 永久にたち帰る美しき春とともに

この苑に憩う私たちの中に生き続ける

平成十九年十月

学校法人玉手山学園

関西福祉科学大学



庭園「春の里」完成予想図



柳井前学部長に名誉教授称号記を授与

関西福祉科学大学 第1号の名誉教授称号記が授与されました

大学事務局総務部

平成19年7月30日、志水彰学長より柳井勉 前健康福祉学部教授、学部長、EAP研究所長（平成19年3月31日付退職・現本学客員教授）に、本学第一号の名誉教授称号記（平成19年4月1日付）が授与されました。

柳井前学部長は、長年本学に勤務され、前年度まで健康福祉学部長及びEAP研究所長の要職を勤められ、本学の教育・研究の振興に特に功績があったとして、名誉教授記が授与されたものであります。

柳井名誉教授の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

「Do 夢」稼働率九十%を超える

法人本部施設部 田 堀 富 造



① 1階トレーニング室での講習会風景



③ 2階サブアリーナでの幼稚園児剣道鍛錬風景



② 1階リズム室でのピリーズブートキャンプ風景



④ 2階サブアリーナでのゼミ生による卓球大会風景



⑤ 3階メインアリーナでの短大生による幼児教育授業風景

新設なった新体育館の利用状況をお知らせします。幼稚園児から大学生まで幅広く利用してもらうために、各校園よりなる運営委員会を組織し、授業優先使用、課外活動使用時の細則などの運用規程を策定し、ルールに則り利用してもらっています。

委員会では授業及び課外活動の使用割振りを調整しており、また公式試合・練習試合・研修会など学外利用者への貸出しなども確認し、体育館長の了承のもと有効に活用

してもらっています。一階トレーニング室は、土日を除き平日の九時三十分から二十時までを学生・教職員に開放しています。また、二階卓球台も貸出し

開放していただきますので、是非ご利用下さい。（問合せは、管理事務室まで）以下に利用状況を写真で紹介いたします。

最後に、管理事務室の管理人さんと警備員さんを紹介いたします。向って右側が鹿谷さん（迫力あるけど案外優しい）、中央は稲山さん（まがったことは大嫌い）、左側は、警備員の富永さん（もう一人の吉見さんと二人交代体制）です。よろしくお願ひします。



歯科衛生学科のリフレクシブ講座

関西女子短期大学 歯科衛生学科

本学同窓会歯科衛生学科のご努力により卒業生を対象とした研修会が開催されてきましたが、昨年より「現役学生と卒業生との融合を目指した生涯学習」として同窓会のご協力に基礎を置いた研修会が再スタートしました。この研修会の打合せの席上、一度現役を退いた卒業生を対象とした実習を含む講座を開設し、歯科衛生士不足という社会的ニーズに応えてはどうかとの話題が同窓会メンバーから提供されました。

今日までの歯科衛生士免許取得者は約十九万人です。一方、就業歯科衛生士数は約八万人であり、免許取得者のおよそ半数は未就業者です。人口構造の変化、口腔疾患構成の変化、口腔の健康観、歯科診療機械器具や材料の進歩、さらに歯科診療体制の変化などにより、経験豊富な歯科衛生士の就業を求める声は、最近一段と大きく

なつてきています。

そこで、歯科衛生士不足の現況を解決する一方策が、この未就業歯科衛生士を再就業させることでありましょう。再就業に際して最大の解決すべき課題は、歯科衛生士業務の再認識とIT化した歯科診療の展開や、最新の知識や技術ならびに材料に関する情報を得ることです。この点において、歯科衛生士養成機関の責務には、大きなものがあります。

本学歯科衛生学科と同窓会の共催により継続してきた「研修会」の経験を礎に、本学保健科歯科衛生士コース卒業生ならびに他校卒業生をも対象として、上記課題を解決する一助になることを期待して、講義（午前）と実習（午後）とからなる講座をシリーズとして4回開講する「歯科衛生士リフレクシブ講座」を左記の通り企画し、実施しました。

アニマルセラピー講座開講

関西女子短期大学保健科医療秘書コース

関西女子短期大学保健科医療秘書コースでは、地域支援交流プログラムの一環としてアニマルセラピー講座を開講しました。対象は医療秘書コースの学生で動物介在療法（アニマルセラピー）課程修了認定証の資格取得希望者1、2年生と近隣地域の方々です。講座の内容は左記の通りです。

第1回	平成19年	6月2日(土)	犬のしつけについて	講義
第2回	"	6月9日(土)	しつけ方教室1	実習
第3回	"	6月16日(土)	しつけ方教室2	実習
第4回	"	6月23日(土)	アニマルセラピーについて	講義
第5回	"	10月27日(土)	施設にてふれあい活動実施予定	

講師 NPO法人日本アニマルセラピー普及協議会（らぼーる）
理事長 宮地ちえみ氏と会員の方
参加者延人数 学生 126名
近隣の方 11名

アニマルセラピーという言葉は最近よく聞かれるようになりまし

た。しかし実際にはどのようなことをするのかあまり分からない方が多いと思いますが今回受講された方々にはよく理解していただけたことと思います。ほんの一例ですがこの講座を受講した学生の意見の中から拾ってみます。

・講義を受けて、命の大切さを改めて考えさせられました。正しいしつけ方や関わり方を学び自分の子供は動物好きの子に育てたい。

・今回学習したことをお年寄りのために役だてたいと思った。そ

して動物介在療法についてもう少し深く勉強したいと思った。

・犬がそばにいないだけで、体が自由に動かせない人でも犬を通じて他の人たちと会話ができるようになることを知り、見えない犬の力を知った。

当日現場での声として多かったのは「犬を見ただけで皆ニコニコしている。堀先生のこんな嬉しそうな顔見たことないわ」でした。犬を見ただけで、犬がそばに来ただけで充分皆癒されていること分かりました。

自分達が、自ら感じたこの「癒される」気持ちをお忘れしないで社会に



貢献したいという学生がもっともっと増えてくれることを願っています。

尚、近隣の方々には広報活動が充分でなかったため参加者が少なかつたのですが、柏原市の社会福祉協議会地域福祉係長や特別養護老人ホーム大阪「好意の庭」の施設長も参加いただき好評のうちに終了しました。



- 第1回 9月9日(日) 最近の歯科衛生士の動向について(祖父江) 歯科衛生士としての受付業務について(佐々木・前田)
- 第2回 9月15日(日) 歯科予防業務について(河崎・中西)
- 第3回 9月22日(日) 歯科診療補助について(笠原・前田)
- 第4回 9月30日(日) 最近の歯科器材の取り扱いについて(町田・酒井)

赤十字奉仕団による学内献血活動

学生支援センター 小林 真郎

去る平成19年5月31日、有文館前特設会場にて、関西福祉科学大学・関西女子短期大学赤十字奉仕団（顧問 短大・高木教授）による学内献血活動が初めて行われました。今回は諸般の理由から献血対象者は大学生・短大生等に限定し実施されました。事前の告知に効果があったのか、当日は予想以上に多くの方々に献血希望をお申し出いただいたため、多少の待ち時間が生じるという形になりましたが、赤十字センターの職員の皆さんや奉仕団の学生の頑張りによって無事終了することができました。献血結果は左記のとおりです。

	大 学	短 大	計
受 付 数(人)	51	48	99
採 血 数(人)	30	26	56
不採血数(人)	21	22	43



学園本館前の献血会場

関西福祉科学大学EAP研究所

「EAPの健康と経営戦略」フォーラム

EAP研究所副所長 長 見 まき子

昨年10月14日(土)、大阪国際会議場にて、関西福祉科学大学EAP研究所第一回「こころの健康と経営戦略」フォーラムが、「EAPの効果的活用」をメインテーマに開催された。産業医・産業保健スタッフ、人事・労務担当者、EAP関係者、臨床心理学を学ぶ学生など百七十七名が参加し盛会であった。シンポジウムでは、EAPを導入している3社がその活用状況を発表。教育講演では、東京大学大学院教授の川上憲人氏が経営戦略とメンタルヘルスの関係についてまとまったお話をされ、

分科会では復職支援、社内外の連携、経営戦略とメンタルヘルス対策について検討するなど、非常に充実した内容のフォーラムであった。また、東京音楽大学教授釜洞祐子氏の美しいソプラノのミニコンサートがフォーラムに花を添え、参加者から好評を博した。

今年度は第2回「こころの健康と経営戦略フォーラム」を平成19年9月22日に大阪国際会議場で開催予定である。今回のメインテーマは「メンタルヘルス対策による個人と組織の活性化」とし、メンタルヘルス対策を経営戦略に効果



的に組み込み、個人と組織を活性化させることを検討する予定である。

特別進学Iコース夏期学習合宿

高校 特別進学Iコース

高校では平成19年7月24日〜26日の3日間、信貴山朝護孫子寺玉蔵院で特別進学コースIの夏期合宿をおこなった。今回の合宿は、1年生12名、2年生10名が参加し、1年生は学習への集中力・持続力の向上、2年生は学力の向上・受験勉強のステップアップを図った。教科は英語・国語・地歴公民の3教科で90分の授業を11回、60分の自学を7回実施した。

学習合宿は昨年の冬に、1年生だけで校内で実施した。合宿後、生徒達の意識が明らかに変化した。そこで今年度は1〜2年生合同で実施することとしたが、校内は手狭であったので、数々の下見の結果、学校から足の便がよく設備の整った信貴山玉蔵院に決定、実施の運びとなった。生徒達は各自の目標を持って合宿に臨んだ。

参加した生徒達の状況であるが、2年生は授業にも積極的に参加し、自学時間も深夜まで使える時間を一杯使い、意識を高くもち学習に励んだ。また、受けた授業の満足度も高く、大変学習効果のあがる有意義な時間を過ごしたものと思われる。合宿を通し、受験勉強

に取組む姿勢を明確にしたようである。

1年生は初めての合宿であり、90分授業に若干の戸惑いもあったようだが、全員学習に真剣に取り組んだ。また2年生に触発され、深夜までおおいに頑張った。初めての合宿を通し、学習に対する姿勢、集中力等得たものは多かったと実感している。

両学年とも進学という大きな目標にむけ、着実に前進しているという確かな手ごたえを感じた合宿であった。



信貴山での学習合宿

笑顔いっぱいの子ども達「幼稚園紹介DVD」完成

幼稚園 大西 英子

美しい自然と充実した施設の中、笑顔いっぱいの子ども達を広く広報することを目的とし制作致しました。

うららかな春の光の中で、厳しい夏の暑さの中で、さわやかな秋の風の中で、冷たい冬の空気の中で、子ども達はキラキラと瞳を輝かせ、大きな歓声をあげながら、今を謳歌しています。この子ども達の活動の一瞬を逃さず、また四季折々の恵まれた自然と環境を記録しておくことを目的に「幼稚園紹介DVD」を制作しようと昨年計画致しました。

このDVDを制作するにあたり、神様も見方についてくれていてと感じました。

少ない制作費の中、収録も限られた回数で、1年間の行事を追わなければなりません。ところが、撮影日はいつも天候に恵まれ、最高のコンディションで収録できました。編集したDVDを初めて見た



幼稚園紹介DVD

とき、吸い込まれるような空の青さに、緑の輝きに、そして子ども達のおふれるような笑顔に感動しました。我が園の特色が余すところなく表現されていると心から嬉しく思いました。

「うな園です。」と紹介してきましたが、「百聞は一見にしかず」とばかり、幼稚園の誇りとする特色や子ども達の生き生きとした姿を十二分に実感して頂くことができました。

我が園をよりたくさんの方々に、広く、深く知って頂くことで、少子化現象の昨今、園児獲得の大きな手段となることでしょう。

学園内の各所属、各学校にこのDVDをお渡ししておりますので、学園の皆様も是非一度ご覧頂ければと願います。

本学のFD活動の取り組み (授業公開、学内FD研究会等の実施)について

大学 F D 委員会

5月30日にFD委員会主催の「第一回学内FD研究会」を開催しました。当日は大阪教育大学の長尾彰夫先生を講師に迎え、「授業改革の意義と方法」についてご講演いただき、学力低下問題や学力評価について活発に意見交換がなされました。次いで、大学では「春学期「授業公開」」期間を6月20日から7月3日の2週間設け、教員相互による参観を行いました。ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development 以下FD) は本来「大学教員の能力や資質の開発」を意味する用語ですが、近年は「教える側」の能力開発や技術向上だけではなく、より広い意味で授業や学習環境の改善への取り組み全般を指す用語

として使用されています。授業の改善努力や学生へのフィードバックの必要はもとより、FD活動への組織的な取り組みは、大学基準協会などの第三者による外部評価においても必須項目となっております。

先にあげた「学内FD研究会」や「授業公開」は、FDの具体的な活動の一つとして考えられています。「授業公開」の目的は、通常の授業を受講生以外の教員に公開することによって、参観者が大学の授業のあるべき姿について考える事ができるとともに、授業を公開する側にとっても、学生と異なる「第三者の目」を介することで日頃の授業についてさらに振り返って頂くことです。

ニューフェイス紹介



辻村 匡志
(政策室)

7月1日付けで、大学事務局政策室に勤務させて頂くことになりました辻村匡志と申します。

これまでは、「環境コンサルティング」という業種にて、各種公共事業に係る環境調査を専門にしておりました。そのため、大学の事務職につきましては、未経験な部分が多く、皆様にご迷惑をお掛けすることも多々あるとは思いますが、早々に仕事を覚え、また、これまでの経験で大学事務に生かせる部分は積極的に取り入れ、本学の繁栄に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

また、プライベートでは釣りを趣味としております。釣り歴が28年ということもあり、オールラウンド(海、川、湖)で多様な釣りを経験して参りました。もし、皆様方の中で、釣りに行かれる方、これから釣りに挑戦したいという方がいらっしゃいましたら、気軽に声をかけて頂ければと思います。

春学期の「授業公開」では、大学の教員が個々に担当授業科目1つを選び、講義形式46、実習・演習形式34の合計80科目を対象としました。参観者には参観後に授業の感想を尋ね、その集計結果を文書で報告しています。



歳嶋順一郎
(情報センター)

仕事、趣味ともに進化中ではありますが、今後ますます成長していきけるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

今年度、六月から大学事務局情報センターにて勤めさせて頂く事になりました。歳嶋順一郎と申します。前職は異業種であった事もあり、新しい事も多く日々勉強の毎日です。ですから学校の事についてはまだまだ何もわかっていない状態ですが、学生さんや学園の為に自分に何が出来るとかを常に考えながら頑張っていこうと思っております。

私は「笑う門には福来る」ということわざが好きです。どんなに苦しくつらい状況でも、笑う事によって状況が打破され、幸せになれると信じて生きてきました。これからも、この気持ちを忘れず常に笑顔心がけ、前向きな気持ちで頑張っていきたいと思っております。

まだまだ学園職員としては未熟なところばかりで、ご迷惑をおかけする事があるかと思いますが、皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

秋学期にも「授業公開」実施を計画しており、今後に向けてFD活動を通して有意義な教育力向上への一つである「授業公開」の形をつくっていきたいと考えております。

平成18年度決算報告

平成18年度の学園基本方針として教育力の向上、良質の教育サービス提供、教育目的・目標達成、最大限の教育効果、健全な財政基盤の確立を基調としておりました。学園教職員の皆様のご尽力のおかげで学園は多くの学生・生徒・園児で賑わっております。18年度は念願の学園総合体育館の建築も完了し、学生・生徒・園児の皆様が一層の教育サービスの提供ができるものと期待しています。財政面は学園総合体育館建築をはじめ教育環境向上のため施設設備関係へ約15億円の投資を行いました。過年度に確保しておりました準備金を取崩すことにより翌年度への繰越消費収入超過額を約13億円保持しながら良好な財政状態を維持しております。今年19年度は皆様のおかげをもちまして大学が開学10周年を迎え、5年後には学園創立70周年を迎えます。学生・生徒・園児及び保護者の皆様から本学園に入学して良かった、卒業して良かったという声が聞こえて来ますように、我々学園教職員全員で、より一層の教育力の向上、教育サービスの提供を目指し、学園の使命を果たし続けてまいります。

資金収支計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,579,706	人件費支出	2,930,785
手数料収入	118,175	教育研究経費支出	808,060
寄付金収入	3,875	管理経費支出	417,269
補助金収入	622,302	施設関係支出	1,257,944
資産運用収入	35,098	設備関係支出	209,794
資産売却収入	250	資産運用支出	210,000
事業収入	65,224	その他の支出	193,830
雑収入	66,327	資金支出調整勘定	△ 168,152
前受金収入	978,801	次年度繰越支払資金	5,886,392
その他の収入	106,556		
資金収入調整勘定	△ 1,115,171		
前年度繰越支払資金	6,284,779		
収入の部合計	11,745,922	支出の部合計	11,745,922

〔収入の部〕

納付金収入については、大学の新学部、学科が完成年度を迎え学生数が増加した為、前年比223百万円の増。補助金収入については、予算を約112百万円上廻り、前受金収入については、入学予定者数が予算見込みより増加したことで104百万円上廻った等々により、収入全体では予算比197百万円の増加となりました。

〔支出の部〕

人件費については、ベースアップ及び新規採用の抑制、一部ボーナスの縮減等もあり、前年度とほぼ同額。経費については、各部門における節減努力によって教育研究経費支出、管理経費支出等支出合計では予算比337百万円の減少となりました。

しかし学園総合体育館建築等大型の施設及び設備関係支出があり「繰越支払資金」が期首の6,284百万円から期末の5,886百万円となり、398百万円の期中支払資金の減少となりました。

消費収支計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位 千円)

消費収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,579,706	人件費	2,959,146
手数料	118,175	教育研究経費	1,221,126
寄付金	8,402	管理経費	479,777
補助金	622,302	資産処分差額	2,776
資産運用収入	35,098	徴収不能額	508
資産処分差額	250		
事業収入	65,224		
雑収入	66,535		
帰属収入合計	5,495,692		
基本金組入額	△ 1,254,481		
消費収入の部合計	4,241,211	消費支出の部合計	4,663,333
		当年度消費支出超過額	422,122
		前年度繰越消費収入超過額	1,459,470
		18年度消費支出準備金取崩額	200,000
		基本金取崩額	83,105
		翌年度繰越消費収入超過額	1,320,453

〔消費収入の部〕

資金収支計算書の収入の部で説明したように各科目とも予算を上回る結果となり、帰属収入合計額は5,496百万円となりました。学園総合体育館の建築等もあり基本金組入額1,254百万円となりましたが消費収入合計額は予算比431百万円増の4,241百万円となりました。

〔消費支出の部〕

資金収支計算書の支出の部で説明したように人件費、経費とも各部門において抑制、節減に努めた結果、予算を下廻り、消費支出合計額は予算比250百万円減の4,663百万円となりました。

その結果、当年度の消費収支差額は、422百万円の支出超過となりましたが、18年度消費支出準備金200百万円の取崩しもあり、翌年度への繰越消費収入超過額は1,320百万円となりました。

貸借対照表

平成19年3月31日

(単位 千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	16,448,708	固定負債	636,553
有形固定資産	12,346,619	退職給与引当金	636,553
その他の固定資産	4,102,089	流動負債	1,405,047
流動資産	6,017,025	前受金	978,801
現金預金	5,886,392	その他	426,246
その他	130,633	負債の部合計	2,041,600
		基本金の部	
		第1号基本金	18,799,679
		第4号基本金	304,000
		基本金の部合計	19,103,679
		消費収支差額の部	
		科目	金額
		翌年度繰越消費収入超過額	1,320,454
		消費収支差額の部合計	1,320,454
		科目	金額
資産の部合計	22,465,733	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	22,465,733

固定資産については、総合体育館の建築、校地の取得及びスクールバスの購入もあり、475百万円の減価償却を実施するも前年度末より1,405百万円の増加となりました。流動資産については、現金預金が398百万円減少し384百万円の減少となりました。資産全体では前期比819百万円の増加となり、19年3月末の資産総額は、22,466百万円となりました。負債については、退職給与引当金の積増しが28百万円ありましたが入学者減による前受金が52百万円減少したことにより前期比14百万円の減少となりました。基本金は、1号基本金が1,171百万円増加し、基本金の合計額は19,104百万円となりました。

消費収支差額については、消費収支計算書において説明したように当期消費支出超過額が422百万円となったため、繰越消費収入超過額が1,320百万円となりました。

なお総資産から負債を引いた純資産は20,424百万円となりました。

平成19年度予算概要

資金収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,543,784	人件費支出	2,935,839
手数料収入	121,870	教育研究経費支出	1,052,954
補助金収入	557,469	管理経費支出	463,050
資産運用収入	42,412	施設関係支出	74,285
事業収入	60,054	設備関係支出	172,927
雑収入	10,989	資産運用支出	340,000
前受金収入	850,598	その他の支出	170,126
その他の収入	87,106	[予備費]	50,000
資金収入調整勘定	△ 983,600	資金支出調整勘定	△ 49,127
前年度繰越支払資金	5,886,392	次年度繰越支払資金	5,967,020
収入の部合計	11,177,074	支出の部合計	11,177,074

本年度は、学生生徒等納付金収入で若干の学生生徒数の減少が予想されるため18年度決算比36百万円の減収見込みとなり、収入全体では5,291百万円を予想しています。支出については、18年度決算比で人件費は、ほぼ横ばいの状態です。教育研究経費は、245百万円の増加で一層の充実を図ります。本年度は大学開学10周年を迎えるにあたり、年間を通しての記念行事等に50百万円の予算を計上しております。資産運用支出においては減価償却引当特定預金等の積み増しとして340百万を計上しておりますが、繰越支払資金については80百万円の増加となる見込みです。

消費収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位 千円)

消費収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,543,784	人件費	2,989,589
手数料	121,870	教育研究経費	1,475,454
寄付金	0	管理経費	515,650
補助金	557,469	[予備費]	50,000
資産運用収入	42,412		
事業収入	60,054		
雑収入	10,989		
帰属収入合計	5,336,578		
基本金組入額	△ 247,212		
消費収入の部合計	5,089,366	消費支出の部合計	5,030,693
		当年度消費収入超過額	58,673
		前年度繰越消費収入超過額	1,320,454
		翌年度繰越消費収入超過額	1,379,127

消費収入については、資金収支計算書と同様であります。消費支出については、資金収支計算書と同様ですが18年度決算比で人件費と経費（減価償却を含む）を合わせて320百万円の増加となりますが基本金組入額が18年度と比べ大型の施設及び設備の取得がないため、当年度消費収支差額は、59百万円の収入超過となる見込みです。前年度からの繰越消費収入超過1,320百万円と合わせて翌年度への繰越消費収入超過額は、1,379百万円となる予想です。